

女子1600
リレー

松山東 四国高校新V

稲田(松山東) 200も制し4冠

【女子1600リレー決勝】3分51秒82の四国高校新を樹立した松山東のメンバー。右から1走・上原、2走・浦田、3走・大内、アンカー稲田。県総合運動公園ニンジニアスタジアム



松山東の女子が有言実行のレースを披露した。1600リレーは3分51秒82の四国高校新をマークして優勝。同200リレーでは、稲田が大会記録と県高校記録に並ぶ24秒80で頂点に立った。稲田はこの大会で400リレー、400リレーを合わせて4冠を獲得した。1600リレーは、県総体で1秒45に迫った四国高校記録に照準を合わせていた。1走上原が想定以上の2位と好発進すると、2走浦田も「前日の予選を走らなかつた分、爆発しました」。ここで逆転し一気にトップに立った。

「後半には自信があった」という3走大内も「貯金」を守ってアンカーへ。チーム一の走力を誇る稲田が「最

3分50秒 全国で切りたい



【女子200リレー決勝】24秒80の大会タイ、県高校タイをマークした稲田美咲(松山東)の力走。県総合運動公園ニンジニアスタジアム(撮影・野田貴之)

後は意地」と、さらに差を広げてゴール。新記録が速報で掲示されると、メンバーは「ヨッシャー」と叫んだり、泣いたりして喜びを表した。昨年決勝で、バトンを落とし、全国大会に行けなかつたりベリッシュを果した瞬間だった。

稲田は200リレーでも念願の24秒台に足を踏み入れた。決勝は1年逆転する庄巻のレースだった。

勝負強さの秘訣(ひ)は「昨年(小豆島)との勝負。3年前、四国中学総体で敗れた相手」に「不安はあったが、自分のレースをする」と臨んだ。

コーナーを抜けたときには田中がリードしていたが、後半はスプリンターとして自信があった。ストレートで逆転する庄巻のレースだった。

稲田は「支えてくれた人のおかげでいい結果を残せた。全国では1600リレーで3分50秒を切りたい」と、次の目標を力強く語っていた。(和田亮)